



こどもクリニックニュース

NO. 259 令和3年8月1日発行
ともながこどもクリニック

院長の予定 (2021年9月まで)

8月	4日	(水)	2才健診	加須・保健センター
	21日	(土)	新型コロナ集団接種	花崎ミ・センター
	28日	(土)	新型コロナ集団接種	騎西・健康福祉センター
9月	5日	(日)	新型コロナ集団接種	騎西・健康福祉センター
	8日	(水)	2才健診	加須・保健センター
	11日	(土)	新型コロナ集団接種	加須・保健センター
	25日	(土)	新型コロナ集団接種	騎西・健康福祉センター
	30日	(木)	3才健診	騎西・健康福祉センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、日程の変更があるかもしれません。

小児科休日診療の当番

令和3年10月までの当番一覧です。加須市では、11月～3月は元日を除くすべての日曜・祝日に、4月～10月は祝日に小児科休日診療を行っています。

月	日	曜日	当番医
8月	9日	(月)	つのだ小児科医院
9月	20日	(月)	福島小児科医院
	23日	(木)	加藤こどもC

※診療(受付)時間は12:00までです。

当番は変わることがありますので、ご利用の際は加須市の広報誌やホームページで最新情報をご確認ください。



休診の予定

当分の間、臨時の休診の予定はありません。

毎年恒例としてきた1週間の「夏休み」は、今年は中止としました。

お盆期間も例年通りに通常診療をいたします。

感染症の情報

6月上旬よりRSウイルス感染症の報告数が急増し、過去に例を見ないほどの流行状況です。通常は主として冬に流行する感染症なのですが、最近は夏にも流行するようになりました。多くの方はいわゆる「カゼ症状」で終わりますが、一部の乳幼児で肺炎や喘息発作に似た呼吸困難症状が出る場合があります。食欲が大きく落ちたり、不機嫌な様子が長く続く時は早めに医療機関を受診しましょう。

その他の主要な感染症は引き続き少ない状態が続いています。例年ならば手足口病やヘルパンギーナが流行している季節ですが、2年連続の「流行なし」です。新型コロナ予防の効果でしょうか。今年も感染症の予測が難しいです。そしていつか来るであろうリバウンドも心配です。

熱中症に要注意！！！！

梅雨明けしたらやはり猛暑がやってきました。夕方になって急に熱が出たり、何日も熱が上がったり下がったりするお子様が増えています。

エアコンで冷房していても、コロナ対策で換気をする外熱気が容赦なく入り込んできます。季節外れのRSウイルス感染症も絡んでいるのかもしれません。

くれぐれもお子様の服装や水分補給、暑さ対策に気を付けてください。

「発熱外来」実施中です。

発熱で来院する方は事前に電話連絡をお願いします。当院では、発熱のある患者さんの中で、原則として

- ① 10歳以上の方は全員、
- ② 10歳未満の方は、同居家族(とりわけ両親)に発熱等のカゼ症状のある方、

を発熱外来の対象とし、発熱のない患者さんとは出入口や診察室を完全に別にして診療しています。

新型コロナ「抗原定性検査」できます。



お子様の新型コロナ感染症と

ワクチン接種との関連について

——日本小児科学会HPの記載を要約してみました——

まず、**お子様の新型コロナ感染症の特徴**は、

- ① 感染源の大部分は身近な大人、とりわけ家族である、
 - ② 子どもは大人よりもかかりにくい、
 - ③ 万一かかっても、無症状か軽症者が多い。
- という傾向に変わりはありません。

この事をふまえ日本小児科学会は、

「子供たちを新型コロナ感染症から守るには、まず周囲の大人の方々が新型コロナに感染しないこと。そのためには両親や同居の家族、そして子供に接する業務をしている方がワクチンを接種すること。特に重い基礎疾患のある子供たちに関わる方は、その職種を問わずワクチン接種が勧められる」としています。

そして12歳以上のお子様自身へのワクチン接種については、新型コロナ感染症による様々な生活の制限、心身への影響、少ないとはいえお子様でも重症化することを考えれば、ワクチン接種は意義があると考えています。一般的には子供は軽く済むことが多く、かつワクチン接種後には多彩な副反応が出現するので、本人や保護者の方がワクチン接種のメリットとデメリットを十分理解したうえで接種の是非を決めていただくことが重要としています。

以上です。詳細は日本小児科学会HPをご覧ください。

当院のホームページ

<http://tomonaga-kodmoc.jp>



加須市下高柳 1633-1

TEL 0480-66-4150

次に、私（院長）の考え方を紹介します。

新型コロナワクチンを接種した場合の ①メリットと ②デメリット、③接種しなかった場合のリスクに分けると理解しやすいと思います。

① メリット

高率に新型コロナウイルスに対する免疫が得られ、感染予防、重症化予防いずれも高い効果が期待できます。現在第5波に見舞われている日本で、高齢者の新規患者数が激減している事実を見ればその有効性は明らかでしょう。

② デメリット

ずばり副反応です。若い方は高齢者よりも発熱や全身倦怠等の頻度が高く、程度も強くなりますが、副反応のその後の経過も冷静に考えてみませんか？

※※接種部位の腫れや痛みは、接種直後よりも翌日から1～2日間くらいが強く、その後数日で消失します。また接種後の発熱や全身倦怠感は、1回目は軽度でも2回目接種後は4分の3くらいの方に出現しているそうです。ただし個人差があり、全員が高熱で苦しむ訳ではありません。熱が出ても解熱剤を飲んで症状を軽くすることができます。副反応の強い方も、3日くらい過ぎれば普通の生活に戻れるようです。

そして、忘れてはならないこと・・・

③ 新型コロナワクチンを受けなかった場合のリスク

新型コロナウイルスに対する免疫がないため、今後も感染/発症する可能性が続きます。もしも罹ってしまった場合、若い方は無症状か軽症の事が多いのですが、それでも10～14日間程度の自宅隔離（もしくは入院）が必要です。運悪く重症化した場合、治療期間は長くなります。また味覚・嗅覚の異常や脱毛など、生命にはかかわらないにしても長く続く不快な合併症も有名です。



<私なりの結論>

新型コロナワクチンの有効性はとても高いと考えます。短期間の副反応を怖がるあまりに、ワクチン接種の大きなメリットを忘れないで頂きたいものです。重いアレルギー体質のある方を除けば、12歳以上の方はできるだけワクチンを接種したほうが良いと考えます。

<新型コロナワクチンの接種間隔に関して>

加須市で使用しているファイザー社製のワクチンの接種間隔は「基本的には3週間」となっていますが、少し長くなっても効果は変わりません。

たとえば1回目は出来るだけ早く接種し、副反応の頻度が高くなる2回目の接種は、週末など仕事や学校を休みやすい日程で計画することもお勧めです。